



第139号 2018年1月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510 萩市役所広報課内

TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458

萩市ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>

[TWO FRIENDS PARTING] SAM ABELL

主な内容

サム・エイベル写真展	P2
明治維新150年祭	P3
ズームアップ 戸倉健夫(東京都)	P6
元気企業探訪 どんどん 株式会社スナダフーズ(萩市)	P8
萩版DMO マネジメント責任者 河口健次郎	P9

1980年(昭和55)11月、写真家のサム・エイベルさんは、萩の人々を敬意を持って撮影した。米国ワシントンDCに拠点を置くナショナル・ジオグラフィック社の若い写真家として、日本の産業革命が始まった萩取材した。その記事は1984年6月に刊行され、萩市やその歴史に世界的な注目が集まった。

エイベルさんは「萩で過ごした時間は私の人生を変えました。人々の親切さ、日本文化の中にある美が、私の文化や社会に対するアイデアに深い影響を与えたのです」と話す。

1980年の萩
平安古・かいまがり鍵曲



サム・エイベル写真展「萩、1980年」

HOME AWAY FROM HOME

遠く離れていても家と呼べる場所



現在の平安古鍵曲を背景にサム・エイベルさん（写真左）と曾野智子さん（撮影 GEORGE NOBECHI）①

世界180カ国、920万人が愛読している情報誌「ナショナル・ジオグラフィック」誌の国際的な一流写真家サム・エイベルさん（72歳）が、1980（昭和55）年に来萩し、萩市内の風景や伝統行事、結婚式や日常的な生活などの写真を撮影。1984年6月に同誌に掲載され、美しい風景等が世界で絶賛された。



TWO FRIENDS PARTING



AFTER PARTING ②



SHINTO FESTIVAL, TAMAE SHRINE

海外の日本のイメージは「神社、庭園」などだが、私は日常生活が日本だと思っている。日本の日常生活が一番美しい。お祭り、行事も大事だが、日本の文化はあいつなど意味深い、美しい日常生活を送っていること。萩は特別な場所。萩の人はどれだけ特別なのか分かっていないのだろうか。自信をもってください。改めて萩の良さを知ってほしい。

1980年の萩

エイベルさんは1945年、米国オハイオ州生まれ。ケンタッキー大学卒業後33年間にわたり、世界の風物を紹介する米国の月刊誌「ナショナル・ジオグラフィック」のカメラマンとして活躍した。

萩市には同誌の企画「日本の産業革命が始まった萩」の取材のため、80年に約2カ月滞在し、当時の常茂恵旅館（唐樋町、1989年に現在地、土原に移転）に宿泊しながら人々の生活など日常風景を撮影した。今回の写真展では、その中から72点が展示された。

写真には80年当時の萩の人々の日常が生き生きと切り取られ、なかでも平安古鍵曲での写真は、エイベルさんの写真集にも採用され、エイベルさんの写真の撮り方、考え方を代表する写真。エイベルさんは「まず背景を選んで構図を決め、人を待つ、ヒューマニティ

を表す貴重な一瞬を待つ」と話す。

エイベルさんの写真集「THE LIFE OF A PHOTOGRAPHER」 「SEEING GARDEN S」では、全米各地、カナダ、オーストラリア、ロシアなど世界各地の写真と並び、萩（日本）の写真が多数掲載されている。エイベルさんは「33年間で多くの国で写真撮影しましたが、この2冊の写真集は私のベストコレクション。2冊とも表紙は萩の写真です」と話す。

平安古鍵曲

今号の表紙は、城下町独特の見通しがきかない鍵形に曲がった街路「鍵曲」で、友人同士の女性2人が別れのあいさつを交わす一瞬を捉えた写真。

この写真は編集部からも高い評価を受け、世界でもよく知られる写真となった。あいさつの後、友人を見送っている写真②は、今も自宅に飾り、見

送る姿としぐさに暖かさを感じるという。昨年36年ぶりに萩を訪れたエイベルさんは撮影場所の鍵曲を再訪、写真に写っている女性、三宅正乃さんの娘、曾野智子さん（平安古町、87歳）に偶然出会ったという（写真①）。詩人の資質を持ち、静かな写真を好む芸術家肌のエイベルさんは、「目で見たものを忠実に再現し、余分なものは一切加えない」のが自分の写真だと強調し、「静かな写真のままでも、それが見る人の心を動かさばいい」と話す。

サム・エイベルさんに聞く

初めての日本が萩でした。その後、東京、京都も訪れましたが、私にとって日本イコール萩です。萩との絆はスピリチュアルなもので、心を通して写真を撮っている。

昨年、萩を再訪し町を歩いたが、ほとんど36年前と変わってなかった。土塀が補修され肌がきれいになっている。それと、宿泊した常茂恵旅館の当時の建物がなくて悲しかった。

海外の日本のイメージは「神社、庭園」などだが、私は日常生活が日本だと思っている。日本の日常生活が一番美しい。お祭り、行事も大事だが、日本の文化はあいつなど意味深い、美しい日常生活を送っていること。

萩・明治維新150年祭

萩・魅力PR大使の募集、 松陰先生のことば朗唱コンテスト

いよいよ明治維新150年の節目となる2018年を迎えます。

萩市では17年〜19年度まで3年間の記念事業を「萩・明治維新150年祭」とし、長州ファイブの志とチャレンジ精神に着目し、日本の近代化の礎を築いた若者たちを育てたまちとして、次代を担う人づくりにつながる事業を展開します。

オープンングイベントを契機とし、若い世代に向けた情報発信を強化するため、SNS等を中心に情報発信する「萩・魅力PR大使」を任命、維新の志士達の志を次世代につなげるため、山口県内の小学生を対象とした「松陰先生のことば」の朗唱コンテストを実施します。

オープンングイベント

◎開会式

1月20日(土) 午後1時 萩市民館
開会宣言、魅力PR大使任命式、記念講演など

◎「学ぼう萩・学ぼう維新」

1月27日(土) 午後1時30分 萩市民館
「松陰のことばを伝えよう」優秀チーム朗唱披露、入賞チーム表彰トークショー

萩・魅力PR大使

◎募集締切は1月5日

県内外から公募し「萩の魅力」を伝える伝道師」として、明治維新150年記念事業や萩の観光名所など萩の魅力やSNSや口コミでPRしていただきます。

明治維新150年にちなみ全国から150名を募集しています。既に多くの方から応募をいただいています。会員からのお早目のご応募をお待ちしています。

□対象者 小学生以上の萩が好きで、萩を広くPRする意志のある方

□募集人数 150人

□任期 18年1月20日〜20年3月31日

□募集締め切り 18年1月5日(午後5時必着)

□特典

・萩市内の観光施設、店舗の優待割引ができる「萩魅力パスポート」を贈呈(任期内使用)

・オープンングイベント開会式にご招待(交通費など各自負担)

・「萩にゃん」のぬいぐるみなど記念グッズを贈呈

□申込方法 萩ネットワーク会員には12月中旬に募集チラシを郵送しました。チラシ裏面の応募用紙を郵送、ファクス、メールで申し込み。

□問い合わせ 萩市企画政策課 0838・25・3102



松陰先生のことば朗唱 (明倫小)



新年のごあいさつ

萩ネットワーク協会会長

萩市長 藤道健二

萩ネットワーク協会会員の皆様には、心新たに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

子育ての幸せが実感できるまちづくり

若い世代が安心して子どもを産み育てることができるよう、小学校卒業までを対象とした現行の医療費助成制度を見直し、対象を高校生まで引き上げるとともに中学生以下の所得制限を廃止するなど、思い切った制度の拡充に努めます。

また、昨年10月に「子育て世代包括支援センターHAGU」を開設し、妊娠・出産・育児中の困りごとなどの相談体制を構築しました。

産業活力が溢れるまちづくり

農業法人と酒造会社との共同で全国初となる、原料米「山田錦」を精米する「とう精施設」を3月までに整備し、地元産の米・水・蔵で造る「萩の地酒」としてブランドを確立することにより、販路拡大を目指します。

魅力ある歴史・自然を生かしたまちづくり

萩市は、山口市や阿武町と共に、大地と人のつながりをテーマに地質遺産を守り、学び、生かしたまちづくりを進めます。平成30年は、日本ジオパーク認定とジオパークとしての萩の発展を目指して取り組みます。

年末になりましたが、本年の皆様のご多幸をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

昨年9月〜12月に、「やまぐちデザインেশョン・キャンペーン」によるさまざまな観光PRが実施されました。明治維新150年の今年、市内の観光資源を最大限に生かした「滞在型・体験型観光」を進めるために、地域の稼ぐ力を引き出し、地域の誇りと愛着を醸成する「萩版DMO」の組織強化を図り、魅力的な観光地の形成に努めます。

萩市は、市内の観光資源を最大限に生かした「滞在型・体験型観光」を進めるために、地域の稼ぐ力を引き出し、地域の誇りと愛着を醸成する「萩版DMO」の組織強化を図り、魅力的な観光地の形成に努めます。

昨年8月、山陰自動車道(益田〜萩間)のうち「大井〜萩間」にルート案が設定され、高速交通網の整備に向け大きく前進した1年となりました。これからは夢の実現に向け、高速交通網の開通を見据えた観光・産業政策を推進し、一日も早い整備に全力で取り組みます。

東京駅前の井上勝銅像 10年ぶりに再設置

井上勝の銅像が17年12月7日、東京駅丸の内駅前広場完成に合わせ再設置された。場所は、駅前広場の中央付近から、北側交通広場（新丸ビルと日本工業倶楽部の近く）に移った。

東京駅のシンボルだった銅像は、東京駅の復元工事に伴い、2007年に撤去されていた。12年、東京駅は創建当時の壮麗な姿を現し、10年後の17年暮れ、ようやく東京駅の駅前広場に帰ってきた。



東京駅舎に向いて立つ銅像（高さ約8m）

映画「八重子のハミング」 萩ロケ支援隊が ジャパン・フィルムコミッション 優秀賞を受賞

ジャパン・フィルムコミッションが主催する「第3回JFCアワード」の表彰式が10月に行われ、映画「八重子のハミング」の萩ロケをサポートした「萩ロケ支援隊」（フィルムコミッション）が優秀賞を受賞した。

14件の応募があり最優秀賞は映画「この世界の片隅に」を支援した広島フィルム・コミッションが、優秀賞は萩を含む5団体が受賞した。

映画「八重子のハミング」

2016年に山口県内各地でロケがあり、メイン舞台の萩市では、笠山椿群生林、田床山、木間小中学校、藍場川での撮影、地元企業との調整やエキストラ募集などを支援した。商業映画を中心に撮ってきた佐々部清監督が、ほぼ自主映画に近い形で映画化、地元も一体となり、一緒に制作した作品として表彰につながった。

ロングランのヒット

映画は17年5月に8館で封切りされた後、口コミで評判が広がり、全国で累計100館以上で上映が続き、日本映画では異例のロングランのヒットとなっている。

これにより萩市が全国にPRされ、雑誌などにも取り上げられた。現在も各地からホール上映の申し込みが相次いでいるという。

ブルーレイ&DVDが発売

1月13日（土）、ブルーレイ&DVDが発売になります。

2002年に設立され、事務局は萩市役所内の観光課に置かれ、市内の各団体が構成。これまで映画「長州ファイブ」、大河ドラマ「八重の桜」「花燃ゆ」、NHKドラマ

撮影の裏側に迫るメイキングや、主演の升毅さん、佐々部監督によるオーディオコメンタリーを収録。ブルーレイ 4800円（税別）、DVD 3800円（税別）

萩ロケ支援隊

椿の大照院 4月から一般公開 7年がかりの保存修理が完成

国の重要文化財に指定されている萩市椿の大照院の本堂と経蔵の保存修理工事が、17年10月末に完成し、11月4日竣工式があった。

4月7日に落慶法要が行われ、4月15日頃から一般公開される。

大照院は1656年、萩藩主・毛利家の菩提寺として建設。1747年の火災で焼失したが、50年に本堂や庫裏など、55年に経蔵が再建された。格式の高い禅宗寺院建築として2002年、国の重要文化財に指定された。

屋根の雨漏りやシロアリ被害が深刻だったため、2011年1月から工事が始まった。健全な部材を再利用したり、伝統的な木工技術で補修するなど復元整備を進めた。建物の構造を強化しただけでなく、本堂は雲谷派が描いた水墨画のふすま絵や経蔵の八角輪蔵なども復旧し、1750年代の再興時の姿がよみがえった。総事業費は約11億円（国が85%補助）。

清水宗梟住職（73歳）は「大照院保存会の寄付活動など多くの方にご支援をいただいた。再興時の姿がよみがえり感謝しかない」と話している。



修復された本堂



旬のお魚「萩のあまだい」

萩のブランド魚「アマダイ」。全国でみると山口県のアマダイ水揚げ量は長崎県と1、2位を争う水準です。市町村別でみると近年萩市は全国第1位。山口県のアマダイ水揚げ量の約6割を萩市が占めています。

■アマダイ漁獲量が全国トップクラス

萩市はアマダイの漁獲量が全国でもトップクラス。なぜ萩でアマダイがこんなにも獲れるのでしょうか。

アマダイは水深1000〜1500mまでの砂や泥が混じった海底で小さな山となっているあたりに巣穴を掘って群れで生活しています。萩沖は水深1000〜1300mの海底が広がっていて、エサも豊富なため、アマダイにとって最高のすみかとなっているんです。

■生で食べられるのは産地限定

アマダイは肉質が柔らかいと同時に、身に水分が多いため痛みやすいお魚でもあります。実は、アマダイを生で食べられる地域は産地を中心に限定されてきます。萩は漁場も近く、はえ縄漁、底引き網漁でも、釣ったすぐあとにアマダイを氷締めにして温度管理を徹底しているため、釣りたてのごく新鮮なお刺身を味わうことができます。これからの時期は身がしまっておりおいしくなります。

刺身はもちろん、アマダイは魚自体の旨みが強いうえに余すところなく使えるためどんな調理法でもおいしく食べられます。比較的小ぶりなアマダイも味が劣ることなくおいしさがあるので、300〜400gサイズの手頃な価格のアマダイを塩焼、煮物、昆布締め、一夜干しなどで食べるのもお勧めです。



あまだい姿造り(霜皮)



あまだい

■お魚の日(第2日曜)イベント「主役は萩のあまだい」

1月14日(日) 9:30~13:00	萩産アマダイの雑炊無料試食(先着100名) 萩産サワラの刺身無料試食(先着200名)
------------------------	---

阿武町

「下請酒場BARフジヤマ」がオープン
人が集まるきっかけ作りに

阿武町奈古地区の空き家(藤山邸)を改修し、9月にオープンした「下請酒場BARフジヤマ」。開業したのは阿武町の地域おこし協力隊でもあり、オーナーの鍋倉旭さん(24歳)。

ウイスキーを中心としたお酒や軽食を提供するバーの店内(9席のカウンター)では、メインバーテンダーの吉岡風詩乃さん(27歳)が笑顔でお出迎え。地元とよそ者が組み合わさった魅力の発信を目指して、あえて阿武町福賀出身の吉岡さんにバーテンダーを任せています。

誰かが始めれば、後に続く人たちがいるかもしれない

神奈川県鎌倉市出身で、17年2月から阿武町の地域おこし協力隊として活動する鍋倉さんは、町内外の若い人たちが交流する場、阿武町を知らない人が気軽に立ち寄れる空間が必要だと感じました。「お店が出来るのを待つより、自分でつくった方が早いな」という思いつきから、自己資金と町の補助金で開業しました。鍋倉さんをはじめ、阿武町内で開業する若者が増えています。アロマセラピーの店「ゆあさ」や、

移住者向けのリサイクルショップ「sotto」などバラエティーに富んでいます。

なかでも、ものづくり工房「astabase」とは月に1回のペースでコラボ企画「呑み四駆」を開催。懐かしのミニ四駆を走らせながらお酒を飲むという企画ですが、意外にも子どもたちが興味津々で、その日に購入して組み立てていました。

居心地の良いたまり場を阿武町につくり、人が集まるきっかけをつくる



オーナーの鍋倉さん(右)とバーテンダーの吉岡さん(左)



提灯がお店の目印

「今後は、準備が整い次第、宿泊プランもご用意して、阿武町に滞在できるきっかけを作る予定です」と話す鍋倉さん。フェイスペインクもされているのでそちらも覗いてみてはいかがでしょうか。

■下請酒場BARフジヤマ
営業日 水・木・金曜日(週3日)
営業時間 18:00〜22:00
TEL 070-3780-137

とくらは
戸倉 健夫さん(萩市椿東前小畑出身、萩高校
昭和53年卒、57歳)住友商事(株)と上海復旦大学^{ふくたん}の留学生奨学金贈呈式(2015年)左端が戸倉健夫さん2017年東京指月会30期同期一同
(前列中央は藤道市長)

繋がれて

昨年(10月)28日、恒例の日本工業倶楽部での東京指月会・創立50周年記念大会の会場で、この寄稿依頼を受けました。

思い起こしますと、その東京指月会の存在を知ったのは、萩を1978年(昭和53年)に出たから29年が経過した2007年(平成19年)でした。それまでは、住友商事(株)の金属部門営業畑で、ジャカルタと東京を3往復する生活で、その存在すら知らなかったのですが「来年は幹事の代り、是非一緒に幹事を手伝ってくれ」という故三坂望^{みさのぼる}さんからの電話がきっかけでした。以来、上海駐在だった2013〜15年を除いて、毎年この同窓会に参加しています。

墓と5メートルの近さ、毎年お盆とお正月には墓前で、私や同級生の近況を彼に語り掛けるのが、私の中では日常になっています。三坂さんは、2008年に交通事故で、卒然と49歳の若さで亡くなられたのですが、萩での思い出は、高校時代に、室生犀星の有名な詩が、故郷に居て詠んだものか、逆に都会に居て詠んだものか、議論した事です。自転車で二人で自宅に戻る途中でしたか。

ふるさととは遠きにありて思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしや

うらぶれて異土の乞食になるとも
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに ふるさと
とおもひ涙ぐむ

そのころもて
遠きみやこにかへらばや
遠きみやこにかへらばや

今、改めて、この詩を読むと、故郷への熱い思いがふつふつと湧いてきます。

繋ぐ

このような故郷・萩への熱い想いを実践している人達が身近に現れ始めました。

一人は、萩第一中、萩高の1年後輩、田子みどりさんです。萩

ネットワーク2017年7月号で拝見したのですが「田子さんが1983年に23歳の若さで設立された現在も代表を務められる(株)コスモピアが、昨年、萩市にサテライトオフィス、その名もソーセイ・ラボを開設」とあります、素晴らしいですね、感動しました。

もう一人は、現在の萩市長・藤道健二さんです。萩高で2〜3年の2年間を同じクラスで一緒に過ごしたクラスメイトの一人です。民間企業を辞めて、退路を断って、故郷・萩の役に立ちたい、その心意気を吐露された時には、正直鳥肌が立ちました。山口県の中でも人口減少や少子高齢化の厳しい萩市ですから、抱える御苦労は計り知れないと思うのですが、萩市のために頑張っていたのだと思いますし、微力ながら、できる事は何でもサポートしたい、私も一緒に頑張りたい、そういう想いで

プロフィール

1960(昭和35)年生まれ、萩市椿東前小畑出身。椿東小学校、萩第一中学校、萩高校昭和53年卒業(30期)、早稲田大学法学部。

1982年住友商事株式会社入社。金属畑で、ジャカルタ3回、上海の駐在を経て、2016年4月より現職・金属業務部長。

東京・虎ノ門「旅する新虎マーケット」に萩市が1月～3月出展

東京・虎ノ門にある大型施設、虎ノ門ヒルズの目の前を走る、2020年東京オリンピック・パラリンピックのメインスタジアムと選手村を結ぶ「新虎通り」。

「旅する新虎マーケット」は日本全国の魅力を集めて発信し、地方創生につなげるために、17年2月から新虎通りに開設。出展自治体の食材を使った食事が楽しめる4棟の「旅するスタンド」、厳選したアイテムを販売する「旅するストア」、テーマに沿ったメニューを提供する「旅するカフェ」など地域の魅力を発信する、期間限定のアンテナショップです。

■萩市の出展内容

明治維新150年の幕開けを飾るべく、1月9日から3カ月間出展、萩市の食や萩焼をはじめとする工芸品などの魅力を国内外に発信します。

「旅するスタンド」の店名は、「魚と肴のお店・萩」。萩市の農水産物を使ったメニューや地酒、地ビールなどが楽しめる。

東京オリンピック・パラリンピックの開幕を前に、国際新都心として街づくりが加速する新橋・虎ノ門エリアの「新虎通り」まで足を運んでみませんか。

■期間 1月9日(火)～3月30

日(金) 予定

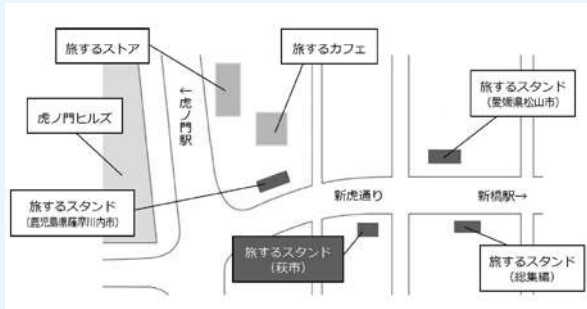
▽旅するスタンド「魚と肴のお店・萩」11:00～21:00 (定休日:月曜日)

▽旅するストア 11:00～19:30 (定休日:月曜日)

▽旅するカフェ 11:00～23:30 住所 東京都港区西新橋2丁目6番ほか(虎ノ門ヒルズ正面付近)

主催 2020年東京オリンピック・パラリンピックを活用した地域活性化推進首長連合

※詳しくはホームページ「旅する新虎マーケット」で検索。



▽アクセス 東京メトロ「虎ノ門駅」「神谷町駅」「霞が関駅」、山手線「新橋駅」から徒歩約10分

シリーズ萩の逸品⑤

まるごとこっぽん「萩の風」(東京・浅草)取扱商品

日本の伝統を小物で表現

「萩の風」では、萩市で事業を営んでいる方々の紹介も兼ねて、店頭で置く小物類の開発をお願ひし、事業のPRをおこなっています。今回は、畳店と、紋章工芸店の商品をご紹介します。

ミニ畳

畳は日本の伝統文化。古くから愛され、健康的にもすぐれた製品です。

中村畳表店では、一枚一枚を手



ミニ畳: い草の香りが心を落ち着けます
約20cm×12cm 800円～1,000円

作りで丁寧に製作され、新畳から張り替えまで畳に関するあらゆる要望に応じています。

当店では販売している商品は、一般的な畳のミニチュア版です。この商品は、サイズはミニでも素材は実際に使用しているものと同じです。本物のイグサの香りとツヤを楽しんでください! 玄関や棚

の上の小物置きとして、花瓶や人形などの飾り台に。傷防止にもなります。



家紋: 萩の偉人の家紋額を販売
約15cm×10cm 900円～

家紋グッズ

紋章とは、いわゆる「家紋」のことで、日本において血筋や家系を識別するためのもので、言わば家のシンボルです。

販売商品の製作元である田中紋章では、大正時代から今日まで、紋入の技法を代々受け継ぎながら、呉服の紋入を中心に日々制作を続けられています。

店頭では萩の偉人の家紋を額にした「家紋額」「家紋色紙」などを販売。オーダーメイドで、お客様の家紋を額や色紙にもできます。店頭の商品以外に、家紋額の制作や、着物への紋入等もおこなっておりますので、ご用命の際には、店員にお気軽にお声かけください。

【ミニ畳】中村畳表店

萩市御許町69
TEL 0838・22・0054

【家紋】田中紋章

萩市瓦町16-3
TEL 0838・22・5817

■まるごとこっぽん「萩の風」

東京都台東区浅草2-6-7
TEL 03・5828・5055

毎日食べても飽きがこない味
「どんどん」のうどん

株式会社 スナダフーツ

専務取締役 大島 透 さん (44歳) とおる



専務取締役・大島透さん



人気のたなかうどん
(肉わかめうどん)

Q 事業拡大に向けては関係しないのでしょうか？

生産量は、旧工場さほど変わりなく、新工場では1日7千食〜8千食を生産します。とはいえ、事業拡大に関係ないわけではなく、拡大すればするほど、衛生管理に目が行き届かなくなってしまうので、企業の目標である「全国のナショナルチェーンへ」が念頭にある新設です。

Q 具体的にどのようなところが変わったのでしょうか？

一言で言うとうちHACCAPハザップ(※FAOとWHOの合同機関である食品規格委員会から発表された国際的に認められた衛生管理の手法)を目指した設備を導入しました。具体的には、工場内部に虫などが侵入してこないように施設を陽圧化し、排水溝は極限まで少なくした設計になっています。また、ドックヤードも限りなく密閉されている新鋭のもの、エアシャワーの導入に伴いエアシャワー室と、食品が店舗に運ばれるまでは可能な限り外気に触れないような施設と

Q 労働環境の改善の部分ではいかがでしょうか？

旧工場では生産空間の比率が圧倒的で研修室やラボはありませんでした。新工場が稼働するまでは、市内公共施設を借り、研修等を行っていましたが、研修室とラボを新たに設け、より弊社事業に沿った環境での研修ができるようになり、商品開発にもストレスなく取り組めるようになりました。また、従業者の高齢化はもとより、労働人口の減少に対応するべく、重量のあるものをなるべく持ち上げない、運ばないような設計設備を導入しています。

Q 更なる飛躍に向けて一言お願いします。

サービスについては、今までと変わらず「体にやさしい、毎日食べても飽きがこない味」を提供するため、食材一つひとつ、調理一手間一手間にこだわり続けます。また、この度は、工場の新設で衛生管理の向上、労働環境の改善ができましたが、今後は店舗の方でも、少人数で運営できるように仕

組み、高齢の方でも働き続けることができる設備投資をし、従業員の方々が長く働けるよう気持ちの良い労働環境を構築していきたいと思っています。

■株式会社スナダフーツ本社
萩市唐樋町30・5
0838・243333

■どんどん店舗案内

- 山口県／萩・長門・山口・小野田・下関・周南・防府・下松・光・宇部に27店舗
- 広島県／3店舗(ゆめタウン大竹店、福山曙店、ゆめタウン呉店)
- 島根県／2店舗(松江店、ゆめタウン益田店)
- 岡山県／1店舗(ゆめタウン倉敷店)
- 東京都／1店舗(箱崎T・CAT店)



新工場 (萩市椿東無田ヶ原)

かわぐち けんじろう
河川 健次郎 さん (65歳)



三菱銀行、米国投資銀行など金融畑から転身、
先祖は毛利藩に仕えた武士の家柄

2015年から登録がスタートした日本版DMO候補法人。萩市においても、17年4月から公益社団法人から一般社団法人へと法人格を切り替え、「地域が稼ぐ」ためのかじ取り役を担う萩市観光協会が、観光庁へ地域DMOを申請し、7月15日付けで登録されました。そのマネジメント責任者として就任した河川健次郎さんにお話を聞きました。

金融マンとして

転勤族だった父が赴任した大阪

貢献した大きなプロジェクトとしては、1970年代、イラン・イラク戦争にて工場が破壊され信用格付けを失った三井物産の信用格付け再取得に貢献し、1500億円

の発行枠再設定の成功や、90年代、伊勢丹のバーニー社宛債権600億円回収プロジェクトを伊勢丹側のアドバイザーとして資金回収完遂などがあります。

帰国後は、1998年にケンジロウカワグチ&アソシエーティスを設立し、代表に就任。2004年には株式会社 杜 財務研究所(現株式会社 杜コンサルティング)を設立し、代表取締役社長に就任。日商岩井、帝人商事、大阪

ガス、アストラル、NTT、NTTドコモ、キリンビバレッジ等々、主に日本を代表する企業をクライアントとして働いてきました。

萩人

大阪生まれ東京育ち、ビジネスマンとしてはグローバルにと、全く萩とは縁もゆかりもないように思えますが、本籍は生まれたときからアメリカにいます。一度も変わらず萩市川島にあります。

高祖父の谷村八右衛門は、樺郷東分村(現在の萩市椿東)に住む毛利藩に仕える武士の家に生まれ、後に川島の河口家の養子に入り、曾祖父、祖父も毛利家に仕え、藩主と共に、萩市から山口市、防

府市、そして東京の高輪へと引越してきた家柄でありつつも、墓は江戸時代から現在まで変わらず萩にあります。

生まれた場所、育った場所は違えど、河川家に生を受けた私は、紛れもなく毛利藩に仕えた一族の末裔。金融の世界に身を置いていたときも、他国の人からは「日本人とは思えない」と評価をいただいていたのですが、その都度、私は萩をルーツに持つこの血がそうさせるのだと感じ「萩人」であることを誇りに思っていました。

世代を超えて萩藩に仕える

萩版DMOマネジメント責任者に就任することが決まり、故郷萩に移り住み、心を震わす出来事が2つありました。

一つは、何気なく選んだ住み家が、谷村家があったであろう場所と同じ所だったこと。もう一つは昨年11月の毛利輝元卿天樹院墓前祭で、毛利家現当主とお話させてもらったとき、現当主も私の家柄をご存知で、2世代ぶりに再び萩に戻り萩のために働こうとする私に「あなたの家は本当に生真面目だね」とお言葉をいただいたことでした。

私が今までの人生で世界を巡り、学び知り得たこと。世界を動かすようなプロジェクトのお手伝いをさせてもらったこと。その全

てが、毛利藩に仕えてきた一族の一人として、今の萩市を力強い「まち」に姿を変えるためにあったのだと、運命的な使命感を感じております。

プロフィール

1952(昭和27)年生まれ
72(昭和47)年朝日新聞洋大文学にて北半球を1周。
74年三菱銀行内定後、南米を単独1周

75年慶應義塾大学商学部卒業、三菱銀行入行 神田支店配属

79年 同行 品川支店配属

83年 同行 ニューヨーク支店配属

87年 ゴールドマン・サックス ニューヨーク本社入社

89(平成元)年 チェース・マンハッタン銀行 ニューヨーク本社入社

95年 デイロン・リード社 東京事務所・本社取締役就任

98年 ケンジロウカワグチ&アソシエーティス設立

2004年 株式会社 杜 財務研究所設立。代表取締役社長就任。

08年 株式会社 杜コンサルティングに社名変更。代表取締役に就任。(現最高顧問)

■日本版DMO

マーケティングや戦略を重視し、観光地経営のかじ取り役となる組織。山口県観光連盟は17年11月登録、萩市観光協会は現在、候補法人に登録。

連載 萩の産業遺産を歩く(四)

—郡司鑄造所跡③—

道迫真吾 (萩博物館主任学芸員)

巨砲生産拠点、郡司鑄造所

嘉永六年(一八五三)十月、幕府は諸藩の海防強化と洋式砲術を奨励する。長州藩では二カ月前、ペキ

サンス砲(ボンベカノン砲)と称する巨砲製造の方針を固めたところであった。藩はいよいよそれを実行に移す段階に入り、藤井百合吉を西洋砲鑄造の御用掛に、守永弥右衛門を大砲鑄造の御用掛に任じて、準備を開始した。

嘉永六年十一月、長州藩は大玉新右衛門に、銅錫吟味役ならびに大砲鑄造御用を命じる。それと同時に、銅・錫を集める会所を郡司右平次が営む松本の鑄造所に置いた。原料の収集拠点と巨砲の生産拠点を一カ所にまとめたのである。青銅は、銅を主成分として錫を10%程度含む合金で、「砲金」とも呼ばれたように、大砲を造るには頗る良い素材であった。なぜならば、韌性(粘り気)と耐磨耗性に優れていたからである。萩は城下町であったから、生活用具の鍋・釜・鏡・火鉢・燭台、または寺院の梵鐘など、多種多様な青銅製品があったはずだ。それらの多くが郡

司鑄造所で製造されたものであるが、皮肉にも幕末の軍事的要請からリサイクルに回され、武器に造りかえられたのである。

それはともかく、長州藩における洋式砲術の第一人者、郡司千左衛門はこの好機に、関東に派遣されていた。萩の藩庁は江戸藩邸に対して、千左衛門を萩に帰してほしいと再三要請したが、千左衛門の帰萩は延期とされたのである。

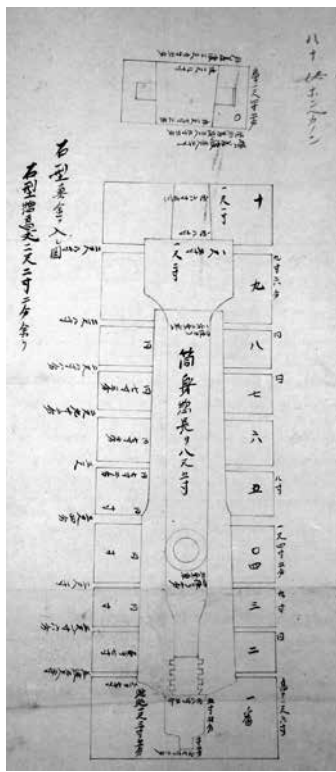
郡司右平次の奮闘!

郡司右平次は安政二年(一八五五)十月、藩に「勤功書」を提出した。それによると、嘉永六年十一月以降、藩政府の負担による工事で大砲鑄造を命じられ、自宅と細工場などが藩に借り上げられて役所

が建てられ、自分は御用掛を命じられ、鑄造の際には藩主もしばしば様子を見に来たという。この内容は、先にみたように、藩が郡司鑄造所を巨砲生産拠点としたことと符合する。右平次は、どのようにして巨砲を造ったのであろうか。

萩博物館には、「八十ポンドボンベカノン諸規則」と称する史料が収蔵されている。もとは郡司千右衛門が所持していたもので、大砲の鑄型をはじめ各部品、砲弾などの設計図が収録されている。近年の研究で、この史料は、薩摩藩の記録の写しであることがわかった。

薩摩藩は嘉永三年(一八五〇)にペキサンス砲の鑄造と発射実験をしており、その記録を千左衛門が入手したものであったのである。な



「八十ポンドボンベカノン諸規則」(萩博物館蔵)



郡司右平次 (郡司家蔵)



郡司鑄造所遺構広場に設置した大砲鑄造用の鑄型模型

お、八十ポンドという単位は砲弾の重量を指す。一ポンドが約0.45kgだから、八十ポンドだと約三十六kgという計算になる。

一方、郡司鑄造所跡で発掘された大砲鑄造用の石組遺構では、大砲鑄造に使用された鑄型が多数検出された。これらの鑄型は、「八十ポンドボンベカノン諸規則」の大砲設計図に描かれたものとよく合致する。よって、郡司右平次は、ペキサンス砲の鑄造に際して「八十ポンドボンベカノン諸規則」を参考にしたものと考えられる。

このように、文献資料(記録・絵図類)と考古資料(遺物)の両面から、右平次の巨砲鑄造の実態が解明された。その成果に基づき、現在には郡司鑄造所遺構広場において、大砲の鑄型を組上げた様子を原寸大の模型で再現している。

模型を見ると、三組の踏輪と甑炉で青銅を熔解し、溶けた青銅を樋で中央に集め、直下の鑄型に注入する様子がわかる。砲腔(砲弾を通す空洞部分)を作るためには、中子を利用していった。こうした砲腔部分の作り方は、江戸時代以

来の伝統的な技法である。しかし、のちに西洋から新しい技術が入り、穴の空いていない状態で鑄造した砲身に、後から水車を動力として錐で砲腔を空けるようになった。

右平次は、素材となる銅の収集にも腐心した。藩は、蔵目喜銅山(山口市阿東)の採掘を右平次に担当させたが、銅が枯渇していたため相当難渋していたのである。

理論と実践、郡司一族の連携

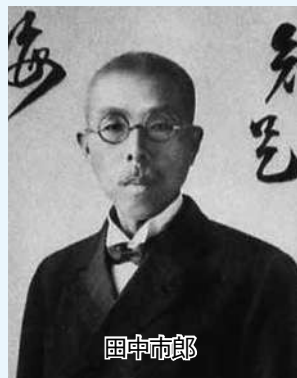
右平次は、八十ポンドペキサンス砲を安政元年(一八五四)十月までに完成させた。長州藩の巨砲鑄造決定からほぼ一年が経過している。彼は、技術的には江戸時代の和式の大砲鑄造法を用い、形状の上では洋式の大砲を造り上げた。その実践の背景には、郡司千左衛門からの知識の提供、すなわち理論的な支援があったことも見逃せない。両者の連携があったからこそ、巨砲製造が可能だったのだ。

(参考) 拙稿「幕末長州藩における洋式大砲鑄造」(『近代日本製鉄・電信の源流』岩田書院、二〇一七年)

萩博物館の前身「田中博物館」開設から80年

萩市民に親しまれ、観光客の拠点ともなっている萩博物館（堀内）の基となった「田中博物館」ができてから80年になった。

田中博物館は、旧制萩中学（現萩高校）の博物学教諭だった田中市郎（1877～1946）が、1937（昭和12）年、土原の自宅敷地に私設博物館として開設した。木造2階建てで、自ら収集した魚類を中心に植物や鳥類などの標本を展示し、無料公開していた。興味深い生物を入手すると、学生や市民に向けて解説するなど積極的な普及活動にも取り組んだ。戦後になり45年ごろに資料は全て萩市に寄贈され、萩科学館や萩市郷土博物館を経て、2004（平成16）年に開館した萩博物館に引き継がれた。

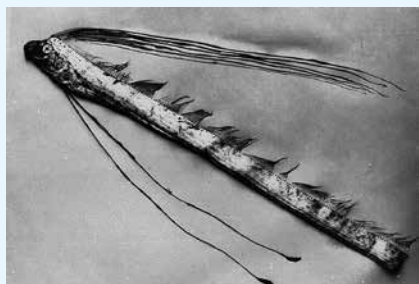


田中市郎

「驚異の部屋」のリュウグウノツカイ

16年にリニューアルされた「いきもの発見ギャラリー」に、田中市郎の寄贈標本274点のうち数十点を展示する特設コーナーを開設した。なお、このギャラリーは今日の博物館の前身となった「驚異の部屋」（ヴァンダー・カンマー、珍品を集めた博物館陳列室）をモチーフとしている。

中でも1941（昭和16）年に萩市三見で採取された珍しい深海魚「リュウグウノツカイ」（長さ1.29m）は、国内で初めて完全な形で収集された貴重な標本。



リュウグウノツカイの標本

萩の海や山はワンダーランド

萩博物館の海洋生物担当の堀成夫・主任研究員は、次のように話している。



萩市郷土博物館の生物標本展示室（昭和43年）

「田中博物館があったからこそ、今の萩博物館がある。歴史の町としてのイメージが強い萩だが、ここ博物館は意外にも生物標本の展示が発端となり、後から歴史や民俗資料が付加されて発展してきたものだった。

人口5万人程度の地方の小都市で、長年にわたって市民と博物館が共に歩んできた町は全国屈指ともすれば風景の一部としてしか見られなかった萩の海や野山は、彼のためまない情熱によって発見うずまくワンダーランドとなった。」



田中浩さん（右）と堀成夫研究員（いきもの発見ギャラリー）

見島牛保存会 結成50周年 文科省の地域文化功労者

見島牛保存会は1967（昭和42）年、減少する見島ウシを増やすために設立され、2017年に設立50周年、結成から半世紀を迎えた。16年11月には、文科科学省の地域文化功労者表彰を受賞し、長年にわたって「見島ウシ」の保存、継承に尽力している活動が認められた。

見島ウシ産地

見島ウシは見島で飼育されてきた、西洋種の影響を受けていない日本の在来牛として、1928（昭和3）年に「見島ウシ産地」が国の天然記念物に指定された。2018年で90年になる。

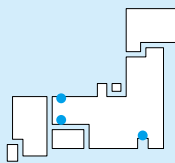
保存会の活動

1976年には33頭にまで激減したが、94年には飼育農家20戸で95頭まで復活した。現在は、農家は7戸と減ってしまったが、89頭（17年11月現在）を飼育している。頭数を増やすには共同飼育による飼育環境の改善が必要とされる。2015年に萩市が、50頭が飼育できる共同牛舎と堆肥舎を整備し、保存会では、積極的な増頭に取り組んでいる。離島という不便性もあり、飼育農家の高齢化や後継者不足はあるものの、徐々に成果が上がっている。



見島牛保存会の多田一馬会長

保存会会長の多田一馬さん（69歳）は「飼育頭数の目標である繁殖雌牛100頭を早く達成し、見島ウシが安定的に保存されることを願っている。これからも先祖や先輩方が守ってきた牛を生かして、島の活性化につなげていきたい」と話している。



「クラス会をいつ、どこで開催します」という情報をお寄せください。萩の資料送ります。投稿記事も歓迎します。hagi-network@city.hagi.lg.jp

会員投稿 10月13日 リゾートホテル美萩(萩市)

指月中8期(昭和30年卒)同期会



3年に1度、関東・関西・中国地方各地の8期生が萩に集まる同窓会を平成17年以来5回目の今年も開催致しました。

菊ヶ浜を見渡す会場に、大阪から家族でご参加の中山さんをはじめ、各地から女性12、男性25の37名が集まり、幹事の竹内さんの開会挨拶に続き、この3年間の物故者への黙禱、校歌斉唱・乾杯の後、思い出・近況の歓談に懇親の花を咲かせました。テーブルごとに代表者の近況紹介、豪華?賞品を競うジャンケン大会等々、久しぶりの再会の時を楽しく過ごす中、お互いまた会えることを期して会場を後にしました。

山口雄三(神奈川県)

会員投稿 10月5日 萩本陣(萩市)

萩高校10期(昭和33年卒)同期会



毎年、各地の同期生に声を掛け、萩→東京→大阪と交互に開催する10期同期会。回を重ねること15回目を迎える今年で「一斉集合は終了」することとなり、その最後の会を第1回開催地の萩で開きました。

あいにくの天気でしたが、節目の会の記念として野村前萩市長をお招きして、萩の歴史と文化の継承について講演を拝聴の後、各地から参集の同期生61名は、3年振りとなる萩での再会に歓談・懇親の輪を広げる中、写真の「萩高万歳」三唱で会を締め、楽しい思い出を各々の心に刻めることができました。

山口雄三(神奈川県)

会員投稿 10月28日 日本工業倶楽部(東京都)

東京指月会創立50周年記念大会



引受期(39期)の皆さん

今年の東京指月会は、創立50周年記念大会として、230名を超える会員と多数のご来賓の方々にご出席いただく中、在京の同期に加え、萩をはじめ各地からの応援、並びに諸先輩方各位の熱い想いとご協力に助けられ、盛大に執り行う事ができました。

半世紀の節目の記念行事に際し、元宮内庁長官・羽毛田信吾様にご講演をいただき、また、御船謡保存会の皆様にも遠く東京の地で御船謡の演唱をいただく等、多くの方々に華を添えていただき、また支えられ、引受期としては感謝の意に堪えません。

新たな半世紀の第一歩を来年の引受期に託し、また次回の開催を楽しみにしたいと思います。

引受期代表 萩高校39期(昭和62卒) 藤村毅

会員投稿 10月24日 東京ガーデンパレス(東京都)

萩高校11期(昭和34年卒)東京喜寿の会



全国から37名が参加して、77歳の喜寿を東京で祝いました。久しぶりに会う元気な級友達の姿と笑顔に、あの青春の日々がよみがえりました。楽しく弾む会話と笑い声の友の姿は、瞬く間に58年前にもどり、「あっ、あーっ!青春だ!」。

東京の街中においても、ともに歩む姿は、まだまだ輝いてトキメキをおぼえます。

幹事代表 玉井知正(東京都)

萩商工ラグビー 山口県大会優勝 トライ数で惜しくも花園出場逃す

全国高校ラグビー大会の県予選会、萩商工高校は11月12日の準決勝で激闘の末、終盤の連続トライで大津緑洋高校に24-17で逆転勝ちした。11月19日、山口高校との決勝では互いに譲らず、24-24の引き分けとなり両校優勝となった。

規定により、トライ数で上回った(商工3-山口4)山口高校が2年連続の全国大会出場を決めた。

前半は体格で勝る萩商工がFW戦を挑み先制トライ、後半にもトライを決めリードを17点に

広げ、試合を優位に進めた。山口高は後半からトライを積み重ね、勝ち越しのトライを奪い、一時7点差に。粘る萩商工は終了間際、トライなどで同点に追いついたがノーサイド。

大平伊織いおり主将は「花園には出られなかったけど、最後まで全力でプレーできたので悔いはありません」、石東正之監督は「スコアでは負けていないので、選手には胸を張ってほしい」、末廣栄校長は「最後まで諦めずに戦い抜いた部員達を褒めたい。保護者や応援してくださった皆様に心より感謝します」と話している。



試合風景(決勝戦)



左から、小野茂輝副主将、大平伊織主将、山本海斗(いずれも3年、萩西中卒)

学校だより

萩光塩学院の本館校舎が完成

円型校舎の吹き抜けらせん階段を受け継ぐ

萩市東田町の萩光塩学院(中学・高校)の新しい本館校舎が完成し、開校記念日に当たる11月1日、竣工式が行われた。

校舎全体をWiFi化 エアコン完備

新校舎は鉄骨造3階建て、延べ床面積は約1200㎡。1階に事務室、校長室、保健室など、2、3階は教室やゼミ室などがある。屋上部分から太陽光が入り明るい雰囲気、木材を多用し温かみのある校舎となっている。

光塩学院のシンボルとして親しまれた円型校舎(昭和30年建)の特徴でもあった、吹き抜けらせん階段を中央部分に設置した。校舎全体をWiFi化して、学校内でも高速でインターネットに接続できる環境を整備、全教室にはエアコンを完備。

式典後にライブコンサート

竣工式式典の後、全国でライブツアーを続けるゴスペルロックバンド・サルーキによる記念コンサートが開催され、全校生徒が1時間余りのライブ演奏を楽しんだ。



新しくなった本館校舎



サルーキ=のライブコンサート

演奏には光塩学院卒業生の田中翼つばきさん(下ラム)、斉藤渉わたるさん(ギター)も参加。田中さん(平成19年卒)は「母校でこの時間を持てたことに感謝したい」と話した。

会員投稿 10月28日 ホテルサンルート徳山(周南市)

つばき会周南支部総会

第14回つばき会周南支部総会と懇親会を開催致しました。出席者は来賓と合わせて31人で楽しい集いとなりました。

総会は校歌斉唱から始まり福井支部長の挨拶、末廣校長からの萩商工の今年度取組状況報告や今回初めてDVDによる学校紹介がありました。懇親会では、ビンゴ大会で盛り上がり、最後に万歳三唱で来年も再会を誓い終了致しました。

事務局 中村好男(光市)



第14回つばき会周南支部同窓会

情報アラカルト

関東地区

■「三輪和彦 咲き初むる白展」
1月17日(水)～22日(月)
※最終日は午後5時まで
東京都中央区日本橋室町1・4
日本橋三越本店

(03・3241・3311)

■「兼田昌尚展 陶18―窯炎のチカラ―」
3月21日(水)～27日(火)
東京都中央区日本橋室町1・4
日本橋三越本店 本館6階美術特選画廊

(03・3274・2553)

■「ミュージック・クロスロード」
世界を舞台に活動する「柳慧」が選ぶ三世代の作曲家に、萩市出身の山本和智が選ばれた。森田花、柳慧の作品とともに、山本作曲「3人の箏奏者と室内オーケストラのための散乱系」が演奏される。チェロ、ピアノ、箏の三つのコンチェルト。
1月20日(土) 午後2時～
横浜市内西区紅葉ヶ丘9・2
神奈川県立音楽堂
(045・263・2567)

東北地区

■「日本伝統工芸展・巡回展」
陶芸家・岡田裕、岡田泰、玉村

信一、波多野善蔵、松尾藻風の作品が入選しました。
1月24日(水)～29日(月)
仙台市青葉区一番町4・8・15
仙台三越
(022・225・7111)

■「水津和之陶芸展」
3月21日(水・祝)～27日(火)
名古屋市中区栄3・5・1
名古屋三越栄店
(052・252・1111)

東海地区

■「内村幹雄作陶展」
2月14日(水)～20日(火)
大阪市北区角田町8・7
阪急うめだ本店 7階美術画廊
(06・6361・1381)

関西地区

■「日本伝統工芸展・巡回展」
陶芸家・岡田裕、岡田泰、玉村
信一、波多野善蔵、松尾藻風の作品が入選しました。
2月16日(金)～20日(火)
大阪市中央区難波5・1・5
大阪高島屋
(06・6631・1101)

中国・四国地区

■「日本伝統工芸展・巡回展」
陶芸家・岡田裕、岡田泰、玉村

信一、波多野善蔵、松尾藻風の作品が入選しました。
2月23日(金)～3月11日(日)
広島市中区上幟町2・22
広島県立美術館
(082・221・6246)

九州地区

■「日本伝統工芸展・巡回展」
陶芸家・岡田裕、岡田泰、玉村
信一、波多野善蔵、松尾藻風の作品が入選しました。
2月2日(金)～7日(水)
福岡市中央区天神2・1・1
福岡三越
(092・724・3111)

山口県関係

■「小田善郎作品展」コドモドコ
美祿市美東町在住の画家・小田善郎さん(萩高校昭和45年卒)の個展。「風景の中のことばたち」をテーマに、2014年山口県美術展大賞を受賞した「顔遊びシリーズ」、近作の「女の子や動物の作品」など約30年間の作品。
1月13日(土)～3月11日(日)
周南市富田永源(永源山公園内、山陽本線新南陽駅から徒歩20分)
周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館 中・小展示室
(0834・62・3119)

■「萩焼 岡田泰 作陶展」
1月18日(木)～23日(火)
山口市中市町3・3

郵便局のみまもりサービス

○ みまもり訪問サービス

郵便局社員等(弊社が委託した者を含みます。)が、月1回、ご利用者宅を訪問し、会話を通じてご利用者の生活状況を確認し、ご指定の報告先に電子メール(PDFファイル)でご報告します。

- ・確認項目は10項目(7項目+選べる3項目)
- ・報告先は最大3名
- ・サービス料金: 2,500円/月(税抜)



○ みまもりでんわサービス

毎日、ご指定の電話番号へ、電話をお掛けし、自動音声に対する回答をご指定の報告先に電子メールでご報告します。

- ・「本日の体調はいかがですか」という自動音声の流れます。
- ・回答選択肢は「元気です」、「いつも通りです」、「元気ありません」
- ・報告先は最大4名
- ・固定電話コース: 980円/月(税抜)
- ・携帯電話コース: 1,180円/月(税抜)



お申込み等、詳細は萩郵便局(総務部)まで!
電話 0838-22-0681

萩市関係

山口井筒屋 5階催場
(083・902・1111)

■萩陶芸家協会設立25周年記念展
「茶陶の現在―2018秋―」
萩陶芸家協会所属の陶芸家約80人の茶陶のほか、桃山から現代までの楽焼、唐津焼などを展示。
開催中～1月8日(月・祝)
入場料 無料
関連行事として行われた萩香合コンクール(応募34点)で、大賞に選ばれた。

成30年1月1日
12月25日～平成30年1月1日

山口県立萩美術館・浦上記念館
(0838・24・2400)

■宝くじまちの音楽会「南こうせつ WING WING・ファン」心のうたコンサート」
萩市民館開館50周年を記念し、歌手の南こうせつをメインに、古箏奏者ウー・ファンとのジョイントコンサート。
2月24日(土) 午後6時～8時30分

萩市江向495・4
萩市民館大ホール
入場料 前売2000円(全席指定)、当日2500円(前売券完売の場合は当日券はありません)
(問) 萩市文化・生涯学習課

出版情報

■「トラフグ物語」

天然から養殖に至るまでフグの生産・流通・消費の構造変化を詳述。未来に向けてフグ業界が講じべき対策などを提言。

著者は阿武町奈古出身の松浦勉さん（萩高校昭和46年卒）。

農林統計協会 28000円(税別)

■「荒くれ漁師をたばねる力」

幼い子を持つシングルマザーとなった24歳の著者が、萩市沖に浮かぶ大島で不漁に悩む漁師の力となり、魚を料理店に直送する「鮮魚BOX」を開発しヒットさせた女性社長の奮闘記。漁業未経験の彼女はなぜ成功したのか。

著者は、萩大島船団丸代表の坪

新規(再)加入会員

- 原保二 (福岡県北九州市)
- 宮川芳久 (福岡県築上町)
- 野村知之 (福岡県北九州市)
- 松浦洋司 (福岡県北九州市)
- 河村栄 (福岡県北九州市)
- 濱村光治 (東京都世田谷区)
- 佐伯和紀 (東京都多摩市)
- 大石裕 (東京都小平市)
- 田嶋博史 (千葉県松戸市)
- 秋田千岐穂 (埼玉県小川町)
- 赤石澤美由紀 (東京都葛飾区)
- 岡富洋 (千葉県市原市)
- 新井友司 (栃木県宇都宮市)
- 中村勝彦 (東京都世田谷区)
- 瀧本幸男 (下関市)
- 大原キク子 (下関市)
- 竹本章 (下関市)
- 三宅秀明 (下関市)
- 溝部眞一郎 (下関市)
- 松浦広忠 (下関市)
- 國安博之 (山口市)
- 吉村恭助 (千葉県千葉市)

- 木原辰巳 (千葉県松戸市)
- 大野修 (東京都大田区)
- 品川振一郎 (神奈川県横浜市)
- 杉原紘輝 (千葉県我孫子市)
- 池田良一 (埼玉県深谷市)
- 上田孝次 (千葉県市原市)
- 末田良一 (福岡県北九州市)
- 伊藤義博 (福岡県北九州市)
- 川島悟 (東京都足立区)
- 山谷隆常 (神奈川県横浜市)
- 佐々木敏夫 (千葉県市原市)
- 久保田泉 (千葉県佐倉市)
- 阿部哲夫 (下関市)
- 松名政昭 (下関市)
- 野村恒雄 (下関市)
- 山富肇 (下関市)
- 吉田靖 (福岡県福岡市)
- 渡邊泰秀 (東京都千代田区)
- 中村普 (千葉県千葉市)
- 末永効士 (神奈川県横須賀市)
- 大西敏富 (神奈川県座間市)
- 鷺頭弘幸 (東京都荒川区)

内知佳さん。坪内さんは、朝日新聞日曜版be (11月25日)「フロントランナー」に掲載。

朝日新聞出版 1512円(税込)

■「維新の商人」語り出す白石正一郎日記

下関市在住の直木賞作家、古川薫の最新著。白石正一郎は幕末の下関で回船問屋を営み、高杉晋作ら志士を支え、自らも奇兵隊士として活躍した豪商。毎日新聞西部本社版に連載(16年4月〜17年8月)した小説を単行本化。

毎日新聞出版 1800円(税別)

■「白河踊り 奥州白河からふるさとへ伝えた盆踊り」

戊辰戦争の主戦場、白河の領民は、敵味方の区別なく死者を弔い盆踊りで霊を慰めた。長州から参戦した諸隊士はふるさとに帰ってからも「白河踊り」を踊り続け、山口県内各地に継承された。

著者、萩市在住の中原正男さん

によるライフワーク。

書肆侃侃房 1500円(税別)

テレビ・映画情報

■NHKラジオ第一(全国放送)

「ふるさと自慢まつり」

ゲスト歌手に千昌夫と水森かおりをリーダーに迎え、地域の男性・女性のグループ対抗で、故郷の良さを自慢する。

放送予定 1月6日(土)

「ふるさと自慢コンサート」

ゲスト歌手2人の歌謡ショー。放送予定 1月13日(土)

いずれも午後4時5分〜4時55分

■映画「八重子のハミング」

萩市 萩ツインシネマ 12月16日(土)〜1月12日(金)、茨城県あまや座 1月6日(土)〜

お知らせ

■「Discover 萩・津和野」旅でつながる旅からはじまる私もよう」

萩市では移住促進のため、都市部の女性を対象とした、既存の観光コンテンツとは一味違う「ヒト」「モノ」「コト」に出会うことを目的とした旅を実施します。募集定員 12人

現地ツアー 2月10日(土)〜12日(月)(山口県萩市→島根県津和野町2泊3日)

参加費 3万円

※羽田〜萩石見空港往復運賃、宿泊費、萩〜津和野内移動交通費含む

応募条件 首都圏在住の女性で、インターネット環境をお持ちの方

応募締切 1月15日(月)午後5時まで

(問) 萩市企画政策課定住対策室

(0838・25・3819)

■ふるさと寄付の変更

萩市のふるさと寄付(ふるさと納税)が、17年12月受付分から変更されました。

①返礼品をお渡しする寄付金額を1万円から1万5千円に変更

②年間の寄付口数の制限をなくし、寄付口数に応じて複数回の返礼品送付を可能に

(問) 萩市企画政策課

(0838・25・3342)

プレゼント

①「萩にゃん」のストラップなど

明治維新150年記念グッズ

②「萩・明治維新150年祭」ポスター(萩市外でPRされる方)

■応募方法 ハガキに品名、住所氏名、電話番号、近況等を明記のうえ、萩ネットワーク協会プレゼント係まで。1月31日必着。

編集後記

・2019年は天皇退位、改元2020年は東京オリンピック、戦後75年。様変わり時代の迎え、新しい発想が必要になる。

明治維新150年の今年、歴史から何を学んだらいいのか。それは多分、時代の先をよむ姿勢、たろうと思う。

・ノーベル文学賞は「わたしを離さないで」、「夜想曲集」などのカズオ・イシグロ、主なテーマは人の「記憶」。個人は都合の悪い記憶を忘れることで生きていけるが、集団的に忘れてはならない社会的な「記憶」がある。

(広報特別参与 山本章二)

ふるさと情報紙「萩ネットワーク」

萩ネットワーク協会 ☎0838・25・3178

全国のネットワーク会員に、年6回隔月で郵送
発行月 1・3・5・7・9・11月号
(1994年10月創刊)
会費 一般2,000円、特別賛助10,000円
会員数 1,700人

イベントカレンダー

萩市観光協会 ☎0838・25・1750

1月10日(水)～3月31日(土)

◇萩まちじゅうめぐり・

萩温泉郷湯めぐりキャンペーン

市内各所

1月20日(土)13:00～

◇萩・明治維新150年オープニングイベント
開会式

市民館

1月27日(土)13:00～

◇萩・明治維新150年オープニングイベント
「学ぼう萩・学ぼう維新」

市民館

2月3日(土)～4月3日(火)

◇萩城下の古き雑たち

旧久保田家住宅ほか

2月17日(土)～3月21日(水・祝)

◇萩・椿まつり

笠山椿群生林

3月中旬予定 10:00～

◇萩の真ふぐまつり

山口県漁協萩地方卸売市場、道の駅「萩しーまーと」

トワイライトエクスプレス瑞風

萩への立ち寄り観光スケジュール

2月18日(日)、3月11日(日)

8:40 東萩駅到着 / 12:08 萩駅出発(予定)



「萩・明治維新150年」ポスター(2018年)



やまぐちDCポスター(2017年)

萩・明治維新150年祭

2018年は明治維新から150年。萩市では、「明治維新胎動の地」として、日本の近代化を成し遂げる原動力となった先達の「幕末・維新の萩物語」を語り継ぐため、19年度までを「萩・明治維新150年祭」とし、未来につながる記念行事を展開します。

☆店舗などに掲出してPRして下さる萩市外の方にプレゼント

山口県立萩美術館・浦上記念館だより

☎0838・24・2400

普通展示

◆浮世絵「江戸のグルメ」 1月2日(火)～2月4日(日)

「勝川春章とその一門」 2月6日(火)～3月11日(日)

◆東洋陶磁「碗の世界」 1月2日(火)～5月27日(日)

◆陶芸・工芸「華やぎのかたち―染野夫妻コレクション」

1月2日(火)～5月27日(日)

◆陶芸「オブジェ―陶造形の潜勢力Ⅲ」 ～3月11日(日)



三輪和彦「黒の遺構」(部分)撮影:斎城卓

■観覧料 普通展示 一般300円、学生200円、70歳以上・18歳以下の方は無料

■休館日 12月25日～平成30年1月1日、祝日・休日を除く月曜日(連休の1月8日、2月12日は開館)

萩博物館だより

☎0838・25・6447

冬期企画展「萩の鉄道ことはじめ」

12月16日(土)～平成30年4月8日(日)

日本近代化の象徴である鉄道は萩に何をもたらしたのでしょうか。「鉄道の父」井上勝をはじめとした「鉄道技術者」飯田俊徳や「時刻表創刊者」手塚猛昌など、萩ゆかりの人々が鉄道を通じて日本の近代化に貢献していったことに注目し、萩と鉄道のかわりを多角的な視点から紹介。



■観覧料

一般510円、高校・大学生310円、小・中学生100円

■休館日 なし(年中無休、年末年始も開館)